

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
学習に対する目的意識が希薄で、家庭学習に十分に取組みしていない生徒が多い。このようなことから、多様化した生徒に対応した指導方法、内容等を検討し組織的に学力の伸長を図る。	(全校レベル) I) 授業力の向上を図る。 II) 単位制を生かし、生徒の進路の多様化に対応した教育課程を整備する。 (下位組織レベル) ① 学習意欲・習慣の向上及び基礎学力の定着。 [各学年・図書課・教務課・各教科]	評価指標 I) ・先生の説明がわかりやすいと思う生徒の割合85%以上。 II) ・単位制による多くの選択科目や少人数授業などが充実していると思う保護者の割合70%以上。 ① 【1学年】 ・家庭学習0時間の者10%以下。2時間以上の者25%以上。 ・学期末において欠点4科目以上の者0名。平均80点以上の成績上位者各学期70人以上。 【2学年】 ・家庭学習0時間の者10%以下。 ・学期末において欠点4科目以上の者0名。 【3学年】 ・家庭学習4時間以上の者10%以上、0時間の者5%以下。	評価指標の達成度 I) ・生徒による授業評価17項目において昨年度に比べて11項目数値が上昇。板書についての項目がすべて向上。先生の説明がわかりやすいと思う生徒の割合は87.2%。 II) ・保護者への学校評価アンケートを実施し、単位制による多くの選択科目や少人数授業などが充実していると思う保護者の割合60%。 ① 【1学年】 ・家庭学習0時間の者平日18%、休日13%。(2時間以上の者平日27%、休日48%) ・1学期末において、欠点4科目以上の者3名、平均点80点以上の成績上位者88名。 ・2学期末において、欠点4科目以上の者8名、平均点80点以上の者70名。 【2学年】 ・学習時間0時間の者平日30%、休日23%。(平日2時間以上29%、休日2時間以上47%、平日3時間以上11%、休日4時間以上11%) ・欠点4科目以上の者(2学期末5名) 【3学年】 ・2回の調査結果から、学習時間4時間以上の者は平日3.9%→6.5%、休日14.3%→17.5% といずれも増加、学習時間0の者は平日45.6%→37.1%、休日43.3%→34.8%と減少。	総合評価 (評定) B (所見) 幅広い生徒層が在籍する中で、単位制を生かし、生徒のニーズに合ったカリキュラムを実践している。成績上位者については、学習時間の確保が高い割合できているが、家庭学習が十分でない生徒の割合も多いことから課題が残る。今年度の生徒の授業評価の中で、特に授業への興味・関心(約71%)を昨年度と比べてみると4ポイント程度減少していることから、授業内容や指導方法の工夫などPDCAで検証しながら対策を講じていく必要がある。	○生徒の授業への関心が4ポイント下がっているのはどうしてか。なぜ下がったかを分析してほしい。 ○生徒が主体的に学習したことを、積極的に授業の中で取り入れてほしい。(アクティブラーニング) ある程度枠の中で学習させることには賛成である。その中で、どうして学ぶのか、自分からアクションを起こしていく生徒を育ててほしい。 ○来年度からの単位増については、学力の向上に繋がる。	○生徒の興味・関心を引き出すため、授業内容等の工夫を各教科や各授業等でより充実させる。 ○研究授業等による各教科や学年での検討会を積極的に開催し、授業力の向上に努める。また、考える力や創造する力を育て、生徒の積極的な授業参加を図る。 ○教育課程の充実した実施に向け、指導内容・指導方法等の改善策を考え魅力あるものにする。
		活動計画 I) 相互参観授業を実施する。 ・教科会・学年会で学力向上に向けて検討する。 ・高大連携事業を行う。	活動計画の実施状況 I) ・6月、11月に教員の相互参観授業「学び合い week」を実施し、授業評価カードを活用して授業力の向上を図った。 ・各学年毎に模擬試験等の結果を活用した学力分析会を実施し指導改善に活かした。 ・7月に徳島大学を訪問し、体験授業を含めキャンパスツアーを行い88名(1年31名、2年30名、3年27名)の生徒が参加した。また、8月に鳴門教育大学主催の体験授業に23名(1年14名、2年8名、3年1名)の生徒が参加した。 ・四国大学の「わくわくイングリッシュセミナー」に6名の生徒が参加した。			
		II) ・多様な学校設定科目を設ける。	II) ・英・数・国・理・社の5教科における研究科目(例:国語研究)はもちろんのこと、ボランティア学特講、チャンピオンスポーツ、ライフロングスポーツ、生活の書、ユニバーサルデザイン、フードデザイン、時事問題、エブリディ・イングリッシュ、伝統文化など多くの学校設定科目により、生徒の学力の多様化に対応した。			
		① 【1学年】 ・3教科に週末課題を課し、自主学習の習慣づけをさせるとともに、家庭学習時間を増やす。学習計画および生活の記録をつけさせ、すべてのテストに対して計画的に準備する習慣をつけさせる。 【2学年】 ・3教科(英数国)に週末課題を課し、家庭における学習習慣の確立と最低学習時間の確保を図る。	① 【1学年】 ・英・数・国の週末課題を毎週実施し、提出させることで学習習慣の定着を図った。家庭学習時間については、前年度と比較して平日・休日ともに上昇した。 【2学年】 ・英・数・国の週末課題を毎週実施し、年間通して組織的に実施することで成績上位者の増加につながった。一部提出が遅れる生徒に課題がある。			

		<p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期中は、3教科に週末課題を課し、家庭学習時間の増加と習慣の定着を図る。 進路学習を通し、進路目標の明確化と学習意欲の喚起を図る。 <p>【図書課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報の取捨選択、活用能力の育成及び、学びを深める場としての図書館の活用を推進する 	<p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英数国各教科ごとに、進路選択や習熟度に応じた課題を設定し、実施した。提出期限の設定と粘り強い提出指導により、80%～90%の提出率を達成した。 <p>【図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 月に1回図書館だよりを発行した。 新刊書等話題の本を紹介するコーナー等により生徒の関心を高めた。 			
<p>具体的な進路目標を早期に設定し、個に応じた進路指導を充実させ、すべての教育活動においてキャリア教育を推進する。</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>I) 「夢をかたち」にできる魅力ある学校にする。</p> <p>II) 保護者と連携した進路指導を充実させる。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①進路意識の向上。 [各学年・進学課]</p> <p>②総合的な学習の時間の充実。 [各学年]</p> <p>②キャリア教育の充実 [就職課][進路課]</p>	<p>評価指標</p> <p>I) ・国公立大学合格者50名以上。 ・本校に進学させて良かったと思っている保護者の割合80%以上。</p> <p>II) ・三者面談や学年別 PTA 等は十分に行われていると思う保護者の割合70%以上。</p> <p>① 【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスや進路説明会の参加者のべ100名以上。 学年最終の進路志望調査において進路「未定者」3%以下。 模試の受験者各回120名以上。 <p>【2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 模試の受験者各回100名以上。 模試の全国偏差値50以上10%以上。 <p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補習登録率60%以上、出席率80%以上 大学入試センター試験出願者40%以上。 <p>②・外部講師による講演会を2回以上実施。</p> <p>③・インターンシップの参加人数20名以上。</p> <p>活動計画</p> <p>I) ・進路ガイダンスを実施する。 (鳴高キャリアアッププランで実施)</p> <p>II) ① ・夏季休業中に三者面談を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年別 PTA を実施する。 PTA 活動を活性化させる。 個人面談を充実させる。 補習を充実させる。 1・2年生に対して、校外模試を年5回以上実施する。 大学入試センター試験に向けた実践トレーニングを行う。 進学資料を適切に配布する。 資格取得を奨励する。 生徒が主体的に進学先を研究する姿勢を身につけさせる。 進路探究バスツアーを実施する。 	<p>評価指標の達成度</p> <p>I) ・国公立大学(18名)私立大学(169名)私立短期大学(31名)専門学校(74名)への合格者であった。同志社大学・立命館大学等、関西の有名私立大学、私立短期大学への進学者の増加、また、看護医療系への進学者も多く、国公立大学進学者を大きく上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校に進学させて良かったと思っている保護者の割合77%。 <p>II)</p> <ul style="list-style-type: none"> 三者面談や学年別 P T A 等は十分に行われていると思う保護者の割合70%。 <p>①【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパス、進路説明会への参加者のべ69名。 進路志望調査において進路「未決定者」(25・2%) 希望模試の受験者8月全統81名、2月全統82名。 年3回の全員受験の指定模試を実施した。 <p>【2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 希望模試の受験者8月全統88名、2月進研108名。 模試の全国偏差値50以上7%。 年3回の全員受験の指定模試を実施した。 <p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補習登録率58・3%、出席率82・6%。 大学入試センター試験出願者約38%。(116名出願) <p>②外部講師による講演会を各学年1回以上実施。</p> <p>③1年生(6名)2年生(14名)3年生(41名)合計61名</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>I) ・1年生対象に進路講演会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生対象に学問別ガイダンスを実施した。(39講座) 3年生対象に学校別ガイダンスを実施した。(42校参加) <p>II) ① ・夏季休業中に三者面談を実施し、進路について理解を促進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年別 P T A を実施し、進路説明会・進路講演会を実施した。 7月に P T A ・教職員が関西大学を視察した。 4月・9月に面接習慣を設け、生徒1名につき2回以上の個人面談を実施した。 年間早朝補習を30分、放課後補習を50分実施した。また、夏期・冬期・春期及び2次対策補習などを実施した。(補習出席率1年83・3%、2年84・9%、3年82・6%) 1・2年生の校外模試を年間6回実施(3回は全員)。部活動で当日受験できない者に対して、別日程で受験できるように配慮した。 冬季休業日以降に鳴高プレテストとして3回実施した。 大学・専門学校資料頒布会2回実施。 鳴門教育大学、徳大医学部、鳴門病院付属専門学校での体験授業等に積極的に参加した。 7月に徳島大学(88名参加)8月に岡山大学(15名参加)への 	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>進学課や各学年が中心となり学問別・学校別等のガイダンスを実施し進路意識を高めていった。徳島大学や岡山大学への見学(体験)バスツアーの参加者も多数あった。</p> <p>年間を通した補習・個別指導・週末課題等を実施することにより、基礎学力・応用力の向上に向けた取り組みをした。</p> <p>今年度のセンター試験には116名が出願したが、生徒の進路希望に則したよりきめ細かい進路指導を図っていく必要がある。</p>	<p>○1学年の進路未決定者が多いのではないか。オープンキャンパスなど積極的に参加させる取り組みを考えてはどうか。</p> <p>○1学年では、中学校との環境の違いを認識させ、角度を変えながら進路指導をしてはどうか。</p>	<p>○進路ガイダンスや進路講演会の改善策を考え、進路意識を高める。</p> <p>また、生徒に様々な情報を広く周知するとともに、積極的に還元できるようにする。</p> <p>○看護・医療系を希望する生徒への指導体制の見直しを図る。</p> <p>○大学入学共通テストに対応するため具体的施策に取り組み、思考力や表現力等を高める能力の育成を図り、資格・検定試験等に向けた指導方法を考える。</p> <p>○補習実施に向けての内容の精選等を再検討する。</p> <p>○食育やエンカル消費等についての意識を高め、健康教育を深める。</p>

		<p>②・薬物防止，非行防止，食育教育，創立記念などの講演会を実施し，広く社会の出来事について関心を持たせキャリア教育を行う。</p> <p>③ インターンシップの参加を促す。</p>	<p>進路探究バスツアーを実施した。</p> <p>②・薬物防止，食育、命の教育等の講演会を実施し，基礎的汎用力を育成した。また、NIE 教育の一環として，新聞読書感想文を1・2年生は全員，3年生は進路決定者に課し，社会の出来事に関心を持たせることができた。創立記念日は，本校卒業生郡利江氏の講演会を実施しキャリア教育につながるものとなった。</p> <p>また，主権者意識を高めるため，2・3年生を対象に出前授業を各1回開催した。</p> <p>・3年生を対象に，年金セミナーを開催した。</p> <p>③・鳴門病院等地域医療現場に61名の生徒が職場体験した。</p> <p>・就職については大塚製薬はじめ県内・外の大手企業等に全員内定した。(就職24名、公務員4名)</p>			
--	--	--	---	--	--	--

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

[平成29年度 徳島県立鳴門高等学校 学力向上推進員・検討委員]

<p>学力向上推進員</p>	<p>教諭・進学課員 美崎由子</p>	<p>学力向上検討委員</p>	<p>教諭・理科・1学年主任 教諭・国語科主任・2学年主任 教諭・公民科・3学年主任 教諭・理科・進学課長 教諭・地歴科主任・就職課主任 教諭・公民科主任 教諭・数学科主任 教諭・理科主任・保健厚課長 教諭・保健体育科主任・総務課主任 教諭・芸術科主任 教諭・英語科主任 教諭・家庭科主任 教諭・情報課長・進学主任</p>	<p>松野 茂男 清水 英洋 郡 善則 榘井 裕次 坂東 弘幸 森脇 稔 廣田 祐作 仁木 留見 市橋 賢治 古川 恵己 島田 良子 谷藤 順子 宮崎 威</p>
----------------	---------------------	-----------------	---	---